

がん化学療法科 ニュースレター

## ほほえみ 第121号



ほほえみが、2010年12月の創刊から10周年を迎えました。長きにわたり、様々な方に読んでいただき、書き続ける励みとなりました。診療体制の厳しい期間も長いのですが、当科から腫瘍内科の領域に進まれた先生方が3名あり、また、当科以外の先生方、スタッフに支えられて続けてこられたと思います。毎月、ニュースレターを書くということによって、その都度、考察したことを振り返ることもできました。今後とも、ほほえみを、お時間のある時に読んでいただければと願っています。

## 10年間を振り返る

10年ひと昔と言いますが、10年前に何をし、何を考えていたのかと思い返すと、今とは大分異なっていることに驚かされます。2010年は、まだ東日本大震災前でした。福田耕二先生が、当科に来られた少し後ですね。第一号は、まだ、ニュースレターの名称が「ほほえみ」に決まる前で、福田先生の自己紹介が載っています。福田先生はその後、秋田大学大学院の臨床腫瘍学講座に進まれ、一段と精力的に活躍されています。今月、東北臨床腫瘍セミナーで講演されるようですね。現在、当院の精神科長をされている佐賀雄大先生が、研修医時代に当科をローテート研修されていたのも、10年前のこの時期です。

私的には、この当時、チーム医療に関わったりしていたことが、バックナンバーを見るとわかります。チーム医療のワークショップで一緒に、そのMDアンダーソン癌センターに留学された三浦裕司先生や古川孝広先生をはじめ、多くのアクティブな友人と知り合った時期です。古川先生は、在米期間が長く、今はがん研有明病院で、がん早期臨床開発部長として、本邦の臨床試験のリーダーの一人になっていますが、10年前の三浦先生(現虎ノ門病院)、古川先生は特にパワフルかつ個性的で、3日間合宿のワークショップのチームが空中分解しそうになりました。最後は、何とかチームがまとまって非常に高い評価を得ましたし、彼らが、MDアンダーソンに行く契機となった、チーム医療では伝説のワークショップです。

以後のほほえみを読み返してみると、秋田大学の柴田浩行教授、羽瀨友則教授に、北東北がんプロフェッショナル養成プロジェクトの外部評価委員に推していただいたご縁で、2011年に順天堂大学の樋野興夫先生と知り合うこととなり、樋野先生の提唱された、「がん哲学外来」に深く関わっています。同年末に「がん哲学外来市民学会」が設立され、当時、設立発起人、監事でした。現在、COVID-19で休止中ですが、当院にも「新渡戸稲造記念がん哲学外来、メディカル・カフェ」ができています。

2012年には、勇美記念財団より研究助成をいただいて、がん哲学外来の成立要件に関する研究を行っています。がん哲学外来を分析、紹介するパンフレットを作成し、幸い、今も使っていただいているようです。伊藤祝栄先生が、当科の後期レジデントをされていたのはこの頃です。伊藤先生は、東北大学大学院・臨床腫瘍学講座に進み、岩手には、残念ながら戻ってきていません。



その後ですが、柴田教授が取りまとめられた「骨転移診療ガイドライン」では、作成委員となり、このガイドラインは、2015年に上梓されました。複数学会からの混成メンバーでしたので、なかなか難しい作業でしたが、ガイドラインの作成現場を経験させていただいたのは貴重な経験です。2016年には、平出桜先生が、後期レジデントをされていますが、丁度、大学人事の関係で診療体制が厳しい時期となり、大変忙しい時期で、彼女は十分にトレーニングできなかったかもしれません。平出先生は、東北大学大学院・臨床腫瘍学講座に進み、近い将来に医学博士を取得されると思います。

2016年は、突然聴力を失うという事態に見舞われた年でした。個人的には、仕事をもっと劇的にハードで、健康を損ねるだろうという時期がそれ以前にあったのですが、2016年は、そこまでの自覚はありませんでした。そういう瞬間に、仕事を離れるということが起きるのですね。秋田大学、東北大学の腫瘍内科の先生方に盛岡に応援に来ていただいて、おかげ様で診療が継続できました。

がん哲学外来の頃から少しずつ読書を行っていましたが、がん診療の経験と重ね合わせて、「医療分野での意思決定」というテーマに達し、2017年に、このテーマでファイザーヘルスリサーチ振興財団の研究助成を得ました。行動経済学を用いた研究です。岩手県立大学の小井田伸雄教授に共同研究者となっていていただいています。骨転移診療ガイドラインで一緒した、佐世保共済病院の井口東郎先生、がん哲学外来の、福井県済生会病院の宗本義則先生に協力していただいて、今も研究を続けています。2019年にファイザーヘルスリサーチセミナーで結果を報告し、特に経済学分野のご高名な先生方から関心をもっていただいたことから、グレードの高い論文にしたいと思い、現在、取りまとめ中です。

記念号は、この10年間を振り返る特集にしようと思っていましたが、11月30日に30年来の友人から(プライベートなので名前は伏せてM君とします。実際は30年ぐらい会っていないのですが)、ウイスキーが1本送られてきました。イチローズ・モルト、モルト・ドリーム・カスクというもので、彼のオリジナルボトルに詰められています。樽とボトルのナンバーが入った希少な飲み物です。彼とは医学部生の頃にレスター大学で、一か月共同生活したのですが、当時から彼の英語、ドイツ語は完成していて、イタリア語、フランス語、スペイン語もできるという卓越した語学センスの持ち主でした。さすが東大理三という感じですね。彼の舌は、外国語を操るだけでなく、ウイスキーのテイastingにも長けていて、その当時でも、マッカランの年代を識別できていました。今回、樽で買ったものを分けてくれたようです。このウイスキーが、秩父で過ごした年月がちょうど10年でした。

10年間で、私個人、診療科ともに様々なことがありましたが、静かに眠っていたウイスキーが10年間で無名ブランドから、世界のコレクターの垂涎の一流ブランドになるなんて。そのウイスキーが、11月30日に送られてくる不思議さを感じます。自分なりに、いろいろ活動した気はしましたが、ウイスキーは、一歩も動かず世界的になったと思うと複雑な心境です。

時が流れることは、変化することと同義と思いますが、身近な変化を捉えながら、ほほえみを書き続けられる間は、書いてみようと思います。気が向いたときに、読んでいただければ幸いです。



秩父蒸留所 Whisky Magazine より引用

## MEMO

### 12月のがん化学療法科の予定

- 12月 1日 診療応援(平出先生)
- 12月 3日 休診とさせていただきます。
- 12月 8日 診療応援(工藤先生)
- 12月15日 診療応援(平出先生)
- 12月22日 診療応援(工藤先生)
- 12月25日 クリスマス
- 12月28日 休診の予定です。



今年も、一年間ありがとうございました。